

## 上溝地区自治会連合会

川と緑につつまれ  
伝統の息づくまち上溝SAGAMIHARA  
CITY

## 地区の概要

上溝地区は、鳩川、姥川、道保川の3本の河川が流れ、横山丘陵の緑地など自然に恵まれたところです。

また、江戸時代末期からの伝統を誇る『上溝夏祭り』などの豊富な伝統文化を育むとともに、『上溝だるま市』や『上溝西の市』が開かれ毎年多くの人でにぎわい、古くから相模原の南北を結ぶ交流の拠点として栄えてきました。今日においても市内を縦断する相模線が通り、地区内には上溝駅、番田駅があり、さらに主要な道路が交わるなど交通の要所になっています。

明治22年の町村制施行により溝村ができ、その後大正15年に上溝町が誕生し、昭和29年の市制施行により、市役所が現在地に移転するまで、町役場は上溝にあり、相模原の政治経済・文化の中心地としての役割を担い発展してきた歴史のあるまちです。

昭和44年、市自治会連合会発足当時の自治会数は17自治会、人口が10,746人2,705世帯で、そのうち自治会加入世帯は、2,426世帯でした。そして平成20年4月1日現在では、人口31,833人11,722世帯で、自治会加入世帯は7,866世帯、自治会加入率67%となっています。

## 地区内の主な出来事

- 平成11年度 上溝公民館創立50周年
- 平成12年度 番田諏訪面自治会館完成
- 平成13年度 上溝駅・駅前広場整備  
姥沢公園（久保自治会内）内に  
てるて姫伝承伝説の碑建立
- 平成15年度 田中自治会館建替え  
ちとせ橋架け替え工事完成
- 平成17年度 石橋自治会大人神輿改修・子供神輿新調  
鳩川の四ツ谷さくら橋改修工事完成
- 平成18年度 四ツ谷自治会新規山車の購入  
上溝小学校子ども見守り隊、  
上溝南小学校子ども見守り隊活動開始
- 平成19年度 田尻自治会御飯屋兼倉庫完成

平成20年度 番田駐在所が番田交番に昇格  
丸崎自治会館建設実行委員会発足  
上溝地域まちづくり会議提言書作成  
総合防災訓練上溝地域会場訓練実施

## 今後の課題

文化と伝統にあふれ、地域の創意工夫で発展してきたまちですが、都市化の進展に伴う道路・交通問題、少子高齢化社会の到来による福祉・教育問題やライフスタイルの多様化による地域コミュニティ意識低下の問題など、地域にとって解決すべき課題は多くあります。

中でも重要な項目を要約すると、道路・交通関係では、相模線の複線化による輸送力増強と番田駅の整備。また、都心へのアクセス向上をもたらす発展の可能性を高める小田急多摩線の延伸の実現。そして、上溝中学校坂下交差点、上溝駅前交差点、上溝本町交差点などの慢性化する交通渋滞の解消があげられます。

伝統行事・文化関係では、県北最大の上溝夏祭りは、相模原市を代表する観光行事で「かながわのまつり50選」にも入っております。また、市の無形文化財に指定されている番田の神代神楽など江戸時代から伝わる文化のある地区にふさわしい、地域の歴史・文化を保存し、PRする施設が必要であり、図書館などと合わせた複合施設の整備を望んでいます。

自然・環境面では、自然を活かした河川改修を行い清流と魚などの生き物を豊かにする対策が必要です。また、子どもたちが野球などのスポーツや遊びに利用できる空間がなくなってきています。気軽に遊べる公園・広場が必要です。

この他にも、商店街の活性化や都市農業の問題など広範囲にわたり課題を抱えておりますが、当自治会連合会としても、地域の皆様と手を携えて、歴史と伝統を継承しつつ、川と緑につつまれ、伝統の息づくまち上溝の実現にむけて努力していく所存であります。

橋の架け替えと道路改良された主要地方道相模原茅ヶ崎線  
ちとせ橋付近地域に密着した駐在所として、長年親しまれていた  
番田駐在所が番田交番に生まれ変わった

上溝駅と同時にバスターミナルを含む駅前広場も整備された

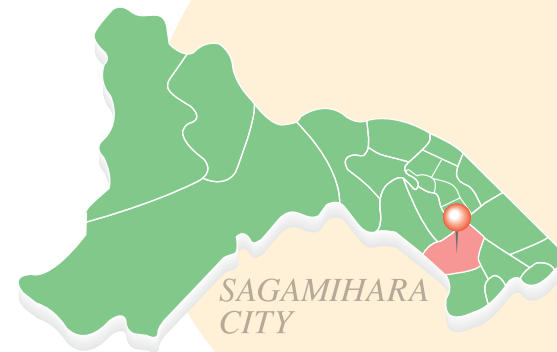
上溝小学校校庭で行われた相模原市総合防災訓練上溝地域  
会場訓練 煙体験ハウスを通過して煙の恐ろしさを実感  
する参加者平成18年4月に新しく購入した  
四ツ谷自治会の山車

上溝商店街を中心に盛大に開催される上溝夏祭りは毎年多くの人でにぎわう



# 麻溝地区自治会連合会

## 清流とみどりに恵まれ 歴史が息づくまち麻溝



### 地区の概要

清流と豊かなみどりに恵まれた歴史のあるまち麻溝地区は、北里大学一帯から相模川に至る起伏の多い地形で、相模原公園、横山丘陵、相模川段丘一帯の緑地と相模川をはじめ道保川・姥川・鳩川・八瀬川の5河川が流れている自然環境に恵まれた地域であるとともに、当麻山無量光寺、天応院、八景の棚、八重桜通り、更には旧街道の名残を残す道祖神や石物など史跡や名勝の多い地域でもあります。

一方、JR相模線原当麻駅を中心とした一帯は、区画整理事業によって整然とした街並みが形成されています。

交通の関係では、さがみ縦貫道の建設も着々と進んでおり、麻溝地区内では平成22年に（仮）相模原インターチェンジが完成予定であり、これと並行してアクセス道路となる県道52号（相模原町田）の拡幅工事も現在進められています。

また、相模大野駅から原当麻駅を結ぶ新交通システムの計画も平成28年の開通に向けた取組みがされており、交通の利便性の向上が期待されているところです。

### 地区自治会連合会の活動

麻溝地区連は、現在23の自治会で構成されており、毎月1回定期的に自治会長会議を開催するとともに、ふるさとまつり、防災訓練等の行事を地区連が主体となり毎年開催しています。

また、地区社会福祉協議会が主催する地区敬老会、公民館との共催による地区レクリエーション大会等の行事にも積極的に協力しています。

### この10年の地区の動き

- 平成12年7月 麻溝子どもセンター開所
- 平成12年8月 上谷開戸土地区画整理事業完成
- 平成14年4月 夢の丘小学校開校
- 平成14年4月 市道「嶽の内当麻」全線開通（夢の丘小学校入口～国道129号までの間が開通）

- 平成15年4月 菅沼俊夫連合会長の後任として、現会長である追切睦廣会長を選出
- 平成18年3月 当麻自治会法人認可（宿自治会と谷原自治会が合併し当麻自治会として発足）
- 平成19年3月 相模原麻溝公園陸上競技場完成（スタンド部分等を除く）
- 平成19年5月 新南清掃工場建設に着手（平成22年度末完成予定）

	世帯数	人口	自治会加入世帯数	自治会加入率
平成10年	5,217	15,762	3,349	64.2%
平成11年	5,257	15,890	3,384	64.4%
平成12年	5,382	16,107	3,416	63.5%
平成13年	5,462	16,175	3,498	64.0%
平成14年	5,643	16,359	3,547	62.9%
平成15年	5,810	16,668	3,606	62.1%
平成16年	5,948	16,822	3,643	61.2%
平成17年	6,058	17,000	3,703	61.1%
平成18年	5,955	17,265	3,676	61.7%
平成19年	6,153	17,636	3,690	60.0%
平成20年	6,329	17,858	3,728	58.9%

（各年4月1日現在）

### 世帯数及び自治会加入世帯

世帯数は、この10年で1,112世帯増加しているが、自治会加入世帯の増加は、379世帯となっており年々自治会への加入世帯率が減少しています。この傾向は、市自治会連合会全体の動向からも同様の傾向と思われる今後の課題であります。

なお、麻溝地区の平均年齢は、平成20年4月現在で39.55歳と市内で一番若く、今後こうした若い世代を中心としたまちづくりが期待されるところです。



麻溝子どもセンター(平成12年7月開所)



夢の丘小学校(平成14年4月開校)



建設が進む「さがみ縦貫道」(仮)相模原インターチェンジ 平成20年11月



当麻山無量光寺山門



相模原麻溝公園陸上競技場 平成20年11月(メインスタンド建設中)



区画整理後の住宅地

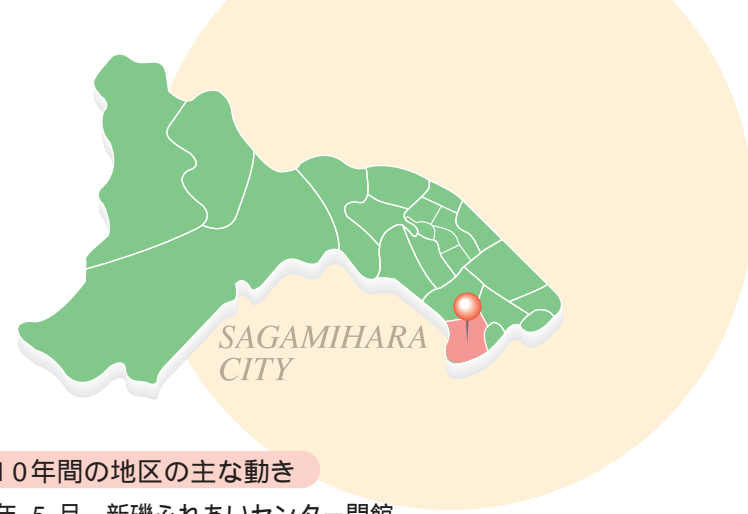


八景の棚



# 新磯地区自治会連合会

## 相模川の自然を守りながら



### 地域の現状と課題

新磯地域は、西側を相模川、東側を河岸段丘の斜面緑地、磯部・新戸周辺に水田地帯が広がるなど、自然環境に恵まれた地域であり、相模の大凧や勝坂遺跡などの地域の貴重な文化財が存在しています。

また、近年、住民の手により相模川の河川堤防に芝ざくらが植えられるなど、自然と共生した郷土づくりも行われています。

一方、地域住民が安心して暮らせるまちづくりのために、防犯・交通安全、防災体制の充実や環境づくりが求められているほか、相模川とキャンプ座間に挟まれた南北に細長い地形的な制約等による幹線道路や生活道路の整備、相模線の複線化やバス路線の延長、更には、キャンプ座間周辺におけるヘリコプターの騒音問題などの課題もあります。

また、地域における健康づくりの推進や高齢者、或いは障害者などに対する福祉施策の充実、地域ぐるみでの子育ての支援のほか、児童生徒がのびのびと教育が受けられるよう学校施設の充実などが求められています。

### 昭和44年市自治会連合会発足当時

自治会数：34自治会、加入世帯：2,037世帯

### 平成11年4月1日

管内世帯：4,049世帯、人口：12,656人、  
自治会数：31自治会、加入世帯：3,408世帯  
自治会加入率：84.2%

### 平成20年4月1日

管内世帯：4,566世帯、人口：12,992人、  
自治会数：33自治会、加入世帯：3,634世帯  
自治会加入率：79.6%

### この10年間の地区の主な動き

- 平成12年 5月 新磯ふれあいセンター開館
- 平成12年 5月 相陽中学校創立50周年
- 平成12年 11月 新磯公民館創立50周年
- 平成14年 4月 上磯部の土壘市登録史跡
- 平成15年 4月 相模の大凧センター・新磯子どもセンター開館
- 平成15年 5月 磯部頭首工公園県からの移管
- 平成16年 4月 全国凧揚げ大会2004の開催
- 平成17年 4月 第1回相模川芝ざくらまつり開催
- 平成17年 4月 市道新戸相武台道路改良事業用地取得に着手
- 平成18年 1月 勝坂遺跡A地区の追加指定
- 平成18年 6月 市安全・安心まちづくり推進協議会新磯支部設立
- 平成18年 6月 消防新磯分署開所
- 平成18年 10月 勝坂コミュニティセンターに騒音計設置
- 平成18年 11月 第1回地区防災訓練実施
- 平成18年 12月 勝坂遺跡公園早期整備要望書提出
- 平成20年 3月 在日米軍再編に伴う再編交付金に関する要望書提出
- 平成20年 4月 市道新戸42号(近江屋道)歩道整備事業用地取得に着手
- 平成20年 5月 新しい総合計画「新磯地域まちづくり提言書」市長に提出
- 平成20年 8月 出張所・公民館大規模改修工事着手
- 平成20年 8月 相陽中学校避難所運営協議会設立
- 平成20年 10月 新磯小学校避難所運営協議会設立
- 平成20年 10月 勝坂遺跡公園等整備促進協議会設立



れんげの里 あらいそ  
(ふれあいセンター、大凧センター、こどもセンター)



上磯部の土壘市登録史跡



磯部頭首工公園



全国凧揚げ大会2004



第1回相模川芝ざくらまつり

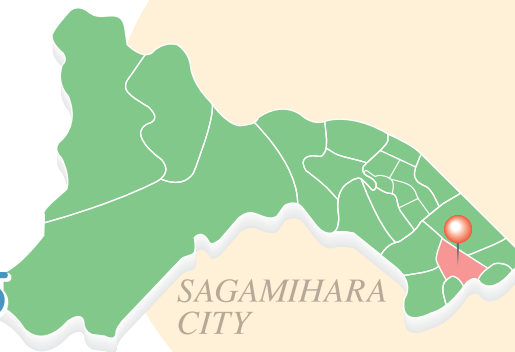


第1回地区防災訓練実施





## 相模台地区自治会連合会

住み良い街づくりと、  
住民主体の地域活性化を目指すSAGAMIHARA  
CITY

## 地区の概要

相模台地区は、昭和13年に現在の（独）国立病院機構相模原病院が、この地に開院したのと時を同じくして、小田急相模原駅が開設しました。さらに昭和30年代後半に現在のサウザンロードの商店街が発展し、公民館・学校などの公共施設、団地や住宅の整備が進むとともに、人口が急増しました。現在の人口は44,765人、世帯数は19,948世帯、自治会加入世帯は12,253世帯（平成20年4月1日現在、加入率61.4%）、自治会数は28です。

## 10年のあゆみ

この10年間で、最大の地区の出来事は、小田急相模原駅前A地区市街地再開発事業の「ラクアル・オダサガ」が平成19年12月に、オープンしたことです。延床面積36,000㎡RC造 地上20階 地下4階、住宅134戸 商業業務駐車場駐輪場があります。特記すべきことは、4階514㎡総てが公共施設として利用できることです。さらに行幸道路を隔てて、B地区再開発事業の決定がなされております。

次に、地域住民のために、「南台公園」が南台4丁目に開園しました。平成15年11月小雨降るなかで、開園式が行われました。延面積5,180㎡、外周フェンス97m、遊具一式、大型水銀灯二基の大きな公園です。施設開園にあたり前市議川上一行氏の御尽力がありました。

地区自治会連合会では、毎年市政懇談会を開催し、自治会長が直接、市長・副市長・教育長に、地区の課題を提言し、行政の対応を確認しております。その中で実現したものを列記します。

## (1) 麻溝台中学校のクーラー設置要望

一般教室12、特別教室2、計14設置されました。  
(平成16年)

## (2) (独)国立病院機構相模原病院の東側へ歩道設置要望

既存ブロック塀を取壊し、延長195m幅員2mの

歩道造成、道路照明7本を設置しました。(平成17年)

## (3) 双葉2丁目3番地先交差点改良要望

延長170m、幅員12m、歩道2.5mの整備、車道舗装などが施工されました。(平成18年)

## 地区のまつり

相模台夏まつりは、「ふるさとづくり」をテーマに、自治会・公民館・商店会・各団体が組織した実行委員会が運営しています。毎年8月上旬に、サウザンロードを歩行者天国にして、32年もの歴史を重ねて参りました。市長を始め、来賓の方々のご臨席を賜り、二日間で10万人以上の集客があります。内容は「相模原市消防団ラッパ隊」「麻溝台高校バトン部」「米軍音楽隊」などの出演や地域の「鳴子おどり」「みこし」などが開催されます。次に相模台地区体育祭も、51回を数え、体育祭実行委員会の運営で、自治会、公民館、各団体の共催で、「みんな元気！楽しく」をテーマに活発に行っております。他に28自治会の内15自治会が、独自に「盆踊り」「夏まつり」を実施し、親睦を深めております。

## 自治会活動

自治会活動の拠点として、会館の必要性は、言うまでもありません。この10年間に、「一青会」「第一住宅」「御園五丁目」「双葉」、各法人自治会が、苦勞努力されて会館を取得されました。

地区の自治活動の特色として、防災訓練の充実があげられると思います。一例として、「双葉小学校合同防災訓練協議会」では既に、避難所訓練の取り組みが始められています。双葉小学校では3地区8自治会が避難所に指定されています。相模台地区（5自治会）大野南地区（2自治会）大野中地区（1自治会）、地区を越えて訓練を重ねてきました。避難所の運営訓練では、基本となるルール作りや作業班毎の体験訓練、リーダーの研修会や講師を招いての勉強会などの活動を行っています。



ラクアル・オダサガ



ラクアル・オダサガ落成式



南台公園



(独)国立病院機構相模原病院 東側歩道



双葉2丁目交差点



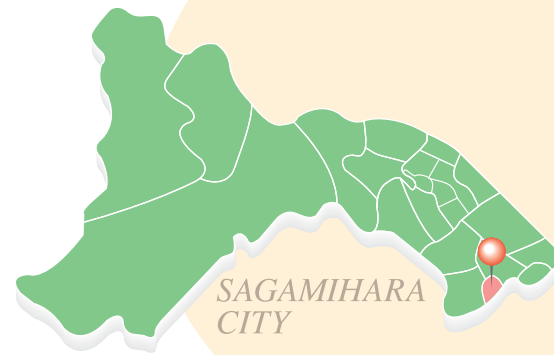
双葉小学校 避難所訓練





# 相武台地区自治会連合会

## 人と人がふれあい 思いやりのあるまち ふるさと相武台



### 地区の概要

相武台地域は、相模原市の南西部に位置し、座間市境と座間キャンプが隣接する地域で、駅前の商業地域や大規模な集合住宅（相武台団地やグリーンパーク）を有し、面積は1.25平方kmで、市域全体で最も狭く、その全てが市街化区域であり、住宅が密集し人口密度が高い地域です。

地域内と隣接地域に小学校3校、中学校2校、高等学校1校の他、市立図書館分館もあり「文化性の高い地域」ですが、都市化や少子高齢化による人口減少も進み、地域における生活環境も大きく変化してきました。また、当地域は旧市域においても自治会加入率が高く、防犯・交通安全・防災、ボランティア・サークルなどの地域活動が活発であり、こうした地域の特色を活かし、人と人とのふれあい、思いやりのあるまちづくりへの取り組みが進められています。

### 地区内の主な出来事（平成10年以降）

- 平成10年 10月 かながわゆめ国体炬火リレー  
（磯野台小～相武台小～リレー隊へ）
- 平成12年 1月 磯野台小学校跡地利用検討委員会を  
設置
- 8月 相武台前駅舎にエレベーター設置等  
座間市・小田急本社へ要望
- 平成13年 3月 自治会連合会30周年記念式典  
及び祝賀会（30周年記念誌発行）
- 4月 もえぎ台小学校開校（北相武台小学校・  
磯野台小学校の統廃校）
- 7月 相武台ふれあい広場暫定整備
- 平成16年 4月 相武台子どもセンター完成
- 平成18年 6月 相模原市安全・安心まちづくり推進  
協議会相武台支部設立
- 平成20年 2月 政令指定都市に関する市民説明会の  
開催
- 5月 市長へ相武台まちづくり提言

### これからの相武台へ向けて

地区自治会連合会は、昭和45年に14自治会4,006世帯で発足、平成20年4月1日現在、32自治会（相武台前町内会自治会連合会、相武台団地連合自治会、グリーンパーク自治会連合会、5単位自治会）からなり、約7,000世帯が加入しています。

地域の活性化のために、座間市と連携しながら駅周辺の整備や商店街の活性化、次代を担う子どもたちの教育環境の充実、そして防犯・交通安全・防災体制の強化など、若い世代が住みやすい環境づくりが望まれています。

また、地域の拠点となる公民館が手狭となり、地域活動への影響もあることから、地域コミュニティの充実を図るため、新たな交流の場づくりが必要となっています。

当地域は、キャンプ座間と県道相武台相模原線（村富線）に挟まれた地域で、県道の慢性的な渋滞やキャンプ座間による迂回など、生活道路である市道に多くの通過車両があり、子どもや高齢者に安全でやさしい道路整備と公共交通の利便性の向上の他、市と地域が一丸となった基地返還に向けた取り組みが求められています。

これからも、相武台地区自治会連合会では地域のまちづくり活動の輪を広げ、次代を担う子どもたちのために積極的に取り組んでまいります。



「ふるさとまつり」相武台中学校吹奏楽部演奏（平成20年）



相武台地区自治会連合会「創立30周年記念式典」(平成13年)



グリーンパーク「さくら祭」オープニング(平成20年)  
相武台鼓笛隊の演奏



相武台団地「防災訓練」(平成20年)

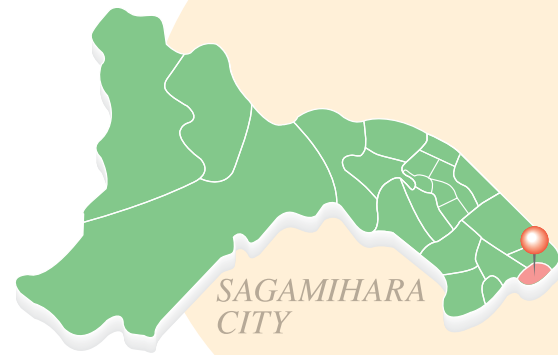


相武台前町内会「夏祭り」(平成20年)



# 東林地区自治会連合会

## 心ふれあう住みよいまち



### 地区の概要

東林地区は、小田急線の東林間駅と小田急相模原駅があり、さらに大和市の中央林間駅にも近いことから、昭和30年代以降首都圏のベッドタウンとして人口が急増し、現在では、両駅を中心とした商業で賑わう地域と周辺の落ち着いた住宅地からなる、生活の利便性の高い地域に発展しました。

この地区は、かつては、「くぬぎ」や「なら」等の林が広がる自然の豊かな地域でしたが、都市化され、人口密度が市内2番目となった今でも、地区内を南北に走る横浜水道道や相模緑道緑地、ふれあいの森や保存緑地、点在する公園等に緑が残されており、健康づくりやいこいの場として、地域住民はもとより多くの市民に親しまれています。

### 【人口・世帯の状況】

年度 (4月1日)	人口 (人)	世帯数	人口 / 世帯	人口 密度	年齢別人口(10月1日)		
					0~14歳	15~64歳	65歳~
平成11年度	39,997	17,370	2.30	13,114	13.1%	74.3%	12.6%
平成20年度	41,877	19,337	2.16	14,053	12.0%	68.0%	20.0%

### 平成11年度から20年度までの主なできごと

- 平成12年度 第1回東林地区防災訓練実施  
都市計画道路上鶴間線の残地等に植栽する「花ロード」開始  
東海大付属相模高校硬式野球部  
全国制覇(春)
- 平成14年度 東林公民館増築(駐車場拡張)
- 平成15年度 小型子どもセンター予定地に植栽する「夢花壇」開始  
第1回東林チャリティーゴルフ開催
- 平成16年度 翠ヶ丘自治会が「防犯モデル地区」指定
- 平成18年度 「安全安心まちづくり推進協議会東林支部」設立  
「東林地区交通安全母の会」設立  
第1回安全安心まちづくりキャンペーン実施  
東林小学校避難所運営協議会設立

- 平成19年度 「くぬぎ台地域活動施設」開館
- 平成20年度 地区社協により「東林いこいの広場」、  
「東林いきいき塾」開始  
「東林地域まちづくり提言書」策定  
くぬぎ台小学校、東林中学校、上鶴間小学校  
及び上鶴間中学校避難所運営協議会設立  
「東林ふれあいセンター」着工

### 地区の課題

人口急増時に現役だった世代が高齢化し、さらに高齢者1人世帯や高齢者のみ世帯も増加していることから、まちのバリアフリー化、高齢者の活動の場の確保や見守り等とともに、子供たちを交通事故や犯罪から守り、住民が安心して暮らしていける地域社会の構築が急務となっています。

このためには、住民参加による“まちづくり”が不可欠であり、現在、活発なボランティア活動が行われていますが、さらに多くの人々の参加が得られるよう、新たな担い手づくりを進めていく必要があります。

また、両駅周辺商店街の活性化や“サマーわぁ！ニバル”、“ふるさとまつり”等を通じた、世代を超えた集いや賑わいの場の充実を図り、地域での交流やふれあいを強化するとともに、災害時の避難対策や要援護者対策、狭あい道路の改善等にも着実に取り組んでいく必要があります。

東林地区自治会連合会は、今後とも、地域住民の皆様と力を合わせ、安全で安心して暮らせる、「心ふれあう住みよいまちづくり」を進めてまいります。



東林いこいの広場



くぬぎ台地域活動施設



東林間サマーわぁ!ニバル会場風景



東林地区ふるさとまつり会場風景



安全安心まちづくり  
キャンペーンパレード



東林地区防災訓練風景